様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０３３７８

研究課題名（和文）ジェイコブ・ヴァイナーの経済思想―「中庸」の“リベラリスト”

研究課題名（英文）Jacob Viner's Economic Thought: Mild Liberalist

研究代表者
木村　雄一（KIMURA, Yuichi）

日本大学・商学部・准教授

研究者番号：８０４３６７４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、価格理論と市場経済の発展、国際経済学の理論・政策の研究、経済思想史研究等に多大な貢献をしたカナダ出身のアメリカの経済学者ジェイコブ・ヴァイナー（Jacob Viner, 1892-1970）の経済思想を以下の諸点から検討した。（１）価格理論と市場経済、（２）国際経済学の研究、（３）ブレトンウッズと戦後秩序、（４）社会秩序における摂理の役割、（５）自由主義政策と中庸。発表論文・研究報告では、ヴァイナーが、イギリス古典派以来の伝統的な「政治経済学」と通底する、経済理論と経済政策のバランスが絶妙にとれた“中庸”の経済思想を有していたことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Jacob Viner (1892-1970) is a Canadian-born American economist who made a great contribution to the price theory, the development of market economy, theories and policies of international economics, and history of economic thought, etc. This research deals with Jacob Viner's economic thought from the following points: (1) Price Theory and Market Economy, (2) Research on International Economics, (3) Bretton Woods and Postwar Order, (4) The Role of Providence in Social Order, (5) Liberal Policy and Middle way. My papers and presentations show that Jacob Viner had the traditional "political economy" since the British classical school, and the balance between economic theory and economic policy as "mild liberalism".

研究分野：現代経済思想史

キーワード：ヴァイナー　国際貿易　価値論　シカゴ学派　フリードマン　古典的自由主義　経済学史　ケインズ

１．研究開始当初の背景

本研究は, 20 世紀のアメリカ内外に大きな影響を与えた著名な経済学者ジェイコブ・ヴァイナー（Jacob Viner, 1892-1970）の経済理論と経済政策の意義と限界に光をあてることで、彼の社会ヴィジョンを明らかにすることであった。本研究に着手するきっかけは、これまで申請者がロビンズ、カルドア、ラーナー、ヒックス、コースなど LSE の経済学者の研究に従事する中で、ロビンズと親交の厚いヴァイナーが「古典的自由主義」としての“政策と理論の絶妙なバランス感覚”を有していたのではないかという申請者の直感によるものであった。

ヴァイナーによる現代経済学の形成と展開における様々な貢献は枚挙に暇がなく、今なお重要な人物である。その理由は、ヴァイナーは、(1)国際経済学における貿易創出効果や貿易転換効果という概念を提示したこと、(2)シカゴ大学時代に費用曲線と供給曲線に関する重要な論文を公刊したこと、(3)J.M.ケインズや L.ロビンズや N.カルドアら現代経済学の巨人達と知的交流をなしたこと、(4)F.ナイトや H.サイモンズとともに「前期シカゴ学派」の形成に多大な貢献をしたこと、(5)M. フリードマンや P.サミュエルソンや G.スティグラーなどノーベル経済学賞受賞者に大きな影響を与えたこと、(6) 自由主義の経済思想を論じつつも福祉国家への理解を示したこと, (7)マックス・ウェーバーと同様に宗教と社会経済学の関係、及び経済思想史を研究したこと、である。さらにヴァイナーは、1930 年代に社会科学の領域で重要な位置を占めるシカゴ大学で F.ナイトや H.サイモンズとともに、M.フリードマンや G.ベッカーの「前期シカゴ学派」と「後期シカゴ学派」の架橋的存在として重要な鍵を握る人物である。

ヴァイナーの経済思想についての研究は緒についたばかりである。その理由は、(1) Bloomfield らによる詳細な研究論文によって、ヴァイナーの理論や政策の概要は明らかになっている一方、ヴァイナーの思想は「自由主義」と指摘されるだけにとどまっていること、(2) 内外においてヴァイナーの経済思想の研究書は皆無であること、(3)ヴァイナーは決して教条主義的な自由主義者ではなく、極端な言説や政策に強い反芻を示したこと、(4) ヴァイナーの思想は、L.ロビンズ、F. ナイト、P. サミュエルソン、R.ハロッドなどの同時代人の経済学者たちと対照して扱う必要があるが、それらが詳細に検討されていないこと、である。

２．研究の目的

本研究の目的は、上述したアメリカの経済学者ジェイコブ・ヴァイナーの理論・政策・思想を明らかにすることであった。そのためには、公刊されたヴァイナーの著作や論文、及びプリンストン大学図書館に所蔵されている第一次資料である「ヴァイナー文書」を用いて、経済理論・経済政策・経済思想の観点から、ヴァイナーの経済思想を深く研究する必要性があった。本研究は具体的に次のⅠ～Ⅴの項目に分けた。

Ⅰ　<u>価格理論と市場経済―マーシャル経済学のシカゴへの影響、及び現代経済学の遺産</u>

ヴァイナーは古典派経済学や新古典派経済学の研究を通じて、市場価格機構を重視していた一方で、福祉国家や社会制度にも目を配り慎重な政策を論じていた。この点は、F. ナイトや H.サイモンズとも共通する点であるが、「初期シカゴ学派」を考える際、重要な視点である。この点は、著者の既存論文「J.ヴァイナーと費用曲線」(『埼玉大学紀要』2015 年）ですでに論じているように、ヴァイナーの価格理論は M.フリードマンによって高く賞賛されているが、その価格理論がどのような中身であるかについては、第一次資料を含めて総合的に研究する必要性がある。

Ⅱ　国際経済学の研究―貿易創出効果・貿易転換効果・貿易同盟

ヴァイナーの主要な業績は国際貿易理論・政策である。貿易創出効果や貿易転換効果は今日の国際経済理論において重要な理論分析であり、社会的無差別曲線や二国間モデル、要素価格均等化に関するモデル化は、A.ラーナーやP.サミュエルソンに多大な影響を与えている。特に所得分析に重きをおくポスト・ケインズ派（ニコラス・カルドア）による知見を織り交ぜつつ、ヴァイナーの国際貿易理論の貢献を明らかにすることを目的であった。

Ⅲ　ブレトンウッズ体制と戦後秩序―ヴァイナーの政策と知的交流

第二次世界大戦後の経済秩序の形成に影響を与えたブレトンウッズ会議で、ヴァイナーは重要な政策立案と関係している。ケインズ、ホワイト、ハロッド、ロビンズらの相互交渉・政策史の研究はなされているが、ヴァイナーがどのようにアメリカ側と協同しイギリスとアメリカの関係を含めてどのような国際秩序が望ましいと考えたのかという研究は皆無であった。特にポスト・ケインズ派による知見を織り交ぜつつ、ヴァイナーとブレトンウッズ体制について、現代アメリカ史を含めつつ、知的交流を含めて明らかにすることであった。

Ⅳ　社会秩序における摂理の役割

ヴァイナーは、経済社会における摂理の役割という経済思想に関心があった。ヴァイナーは M.ウェーバーによる社会経済学の検討を行う一方で、思想史の多数の論文を公刊し、未完成の遺稿も残した。これらは、ヴァイナーの理論や政策を支持した彼自身の“社会ヴィジョン”を形成した一要素であることから、彼の宗教と経済学の考えを明らかにすることを目的であった。

Ⅴ　自由主義政策と「中庸」

Ⅰ～Ⅳを踏まえて、(1)ヴァイナーの自由主義経済思想の論文・未公刊論文を検討すること、(2)LSE とシカゴの比較（両大学は創設時期・経済学研究の拠点という点で類似性がある）、P. サミュエルソン、F. ナイト、G. J. スティグラー、M.フリードマン、L.ロビンズらと同時代人との比較研究を行うことで、ヴァイナーが政策において「中庸」を重んずるリベラリストであることを明らかにすることであった。

３．研究の方法

研究手法は次の①から④までの組み合わせによる。すなわち、①資料調査研究、②理論研究、③政策研究、④思想研究に分類し、①と②と③を土台に④を検討した。①資料調査研究として、プリンストン大学・マッド・マニュスクリプト図書館の「ヴァイナー文書」と、ケンブリッジ大学・キングズカレッジ・アーカイブセンターや LSE 図書館に存在する第一次資料を用いてのヴァイナー研究、②理論研究と③政策研究として、論文や著書を用いてのヴァイナー研究、そして④思想研究としては、①～③を総合的にかつ深く研究することにより、ヴァイナーの経済思想を明らかにした。在外の資料調査研究を行わないときは、公刊論文及び入手資料の整理を通じて、論文執筆や学会報告の準備にあてた。②理論研究と③政策研究は、作業を進めていけば、確実に成果があがるので、コンスタントに時間を取り、研究を行った。研究遂行上の具体的工夫として、本研究課題が研究の途上でもディスカッション・ペーパーを上梓し、研究会報告や学会報告を積極的に行うことで、より完成された研究成果が得られるように心がけた。

４．研究成果

本研究は、ヴァイナーと同時代の経済学者達に関する資料収集・理論、思想研究を中心に行いつつ、研究会報告・論文執筆に集中した。インフォーマルな現代経済理論研究会では

二回の研究報告・質疑討論を行った（「J．ヴァイナーと国際貿易」第二回現代経済理論研究会、金沢大学 2016 年 2 月 18 日 、「J.ヴァイナーにおける国際貿易論と経済政策：L.ロビンズの政策論との比較及び古典的自由主義との関連を中心に」第三回現代経済理論研究会（石川四高記念文化交流館２階多目的利用室２）2016 年 12 月 28 日　）。「5.主な研究発表論文等」に記載したように、現時点での研究成果は本研究課題に直接的・間接的に関連する学会報告２本と学術論文４本である。

上述した研究成果のうち主要な議論をかいつまんで説明するならば、ヴァイナーは自由貿易を支持し自由主義の理念を高く掲げたが，けっして教条主義でなく，バランスの取れた政策判断を身につけていたことを明らかにしたことである。ヴァイナーは，無差別主義を徹底させたハバナ憲章を批判したり，「国際雇用安定基金」の設立を求めたり，計画経済と自由経済の中道を目指したりと，現実の経済状況を汲んだ公共政策を打ち出す努力をした。ヴァイナーは，理論的に反ケインズ的な見解も有していたが，ケインズ政策とほぼ同様の議論も展開した。ヴァイナーの思想は，ポスト・ケインズ派のカルドアらの理論や政策と対照させて論じることで、ロビンズのそれと共に「古典的自由主義」に位置づけられる、と結論づけた。

現在、「ヴァイナーと国際経済秩序」「ヴァイナーとニューディール」に関する研究をまとめている。また現在著者はフランス・リヨン第二大学で在外研究に従事しており、研究成果を国際セミナーで報告し、意見交換を行う予定である。最終的には、これまでの刊行論文や学会報告をまとめて、ヴァイナーの研究書として上梓する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

① 木村雄一，J.ヴァイナーと国際貿易－自由貿易、関税同盟、古典的自由主義，商学集志，87/ 2・3，19-50，2017，査読有

② 木村雄一，小学校社会科教育における“経済教育”とゲームの活用－江戸川区こども未来館での「経済ゼミ」での事例を参考に－，経済教育，36，26-35，2017，査読無

③ 木村雄一，政策家としてのニコラス・カルドア，商学集志，86/ 4，1-23，2017，査読有

④ 木村雄一，N.カルドアと分配･成長モデル－「動態的資本主義」の経済ヴィジョン，商学集志，64/1，1-34，2016，査読有

〔学会発表〕（計　3　件）

① Yuichi Kimura, N. Kaldor’s social vision, The 22nd Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 2018

② Yuichi Kimura, Nicholas Kaldor's Policies and Social Views through Theories and Policies Compared with those of Liberal Economists such as Friedman, Robbins and Viner　44th Annual Meetings of the History of Economics Society (HES), 2017

③ 木村雄一，政策家としてのニコラス･カルドア，ケインズ学会ケインズ学会第六回年次，2016

〔図書〕（計　0　件）
①
②
③

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
木村　雄一（KIMURA，Yuichi）
日本大学・商学部・准教授
研究者番号：８０４３６７４０